

「今の日本の政治は戦前に近づいているんだよ。」父が夕食の時間に何気なく発したこの一言は、私の胸に鮮烈に刻まれました。

私はその時不安に感じたのは、昨年公布された特定秘密保護法でした。この法律により、政府や行政の長は国民に隠したい「秘密」を勝手に決める事ができます。しかしこの法律をよく考えてみると矛盾ばかりだという事が分かります。まず、何が「国の秘密」なのかは国民に秘密にされる事。次に、「国の秘密」に知らずにふれた場合も逮捕されるおそれがある事。また国が行った悪事を告発した場合でも最大十年間の懲役になる事など、「秘密の保護」を口実に誰もが政府に監視され、言論の自由が奪われてしまうのです。

このような法律が制定されてしまえば、もはや日本は国民の意思に従って政治を行う「民主主義」ではなくなってしまうのではと思ってしまう。特定秘密保護法は調べれば調べるほど怖くなり、不安になるばかりでした。

この法律で一番恐ろしいと感じたのは、原発の危険性の情報は政府が公開禁止にする方針であり、もし原発事故が発生したとしても政府による報道制限が可能であるという事です。東日本大震災により起こった原発事故で被曝してしまった人達、そして事故が起こったという過去、またこれからの起こるかもしれない事故の危険な情報が隠されてしまう可能性があるというのは、非常事態だと思います。

近頃、隣の国である中国や韓国との関係が悪くなっています。首相が、戦争の首謀者であった人達が祀られている靖国神社を参拝した事でも、様々な国の反感を買いました。他の国々に批判されることが分かっているにも尚、なぜ参拝するのか、他の国々に何を伝えたいのか、本当に分からない所だらけだと私は思いました。どのようにして戦争は起こってしまうのか、原因は領土問題や核兵器の問題など色々あると思いますが、今のままで本当に大丈夫なのかと心配になります。

今はまだ若いからと言って黙って見ていれば、十年二十年経って私達が国を動かす立場に立った時、日本はどうなってしまうのでしょうか。自由に話しをする事ができず、周りの人の目に脅えながら、不安を抱えて暮らす。他の国との関係がますます悪化すれば、戦争だって起こるかもしれません。そんな事を無くすためには、きちんと自分の意見を発信していく事が大切だと思います。具体的に言えば、選挙の投票権がある人がきちんと投票するという事が必要だと思うのです。しかし政治に不満があったり、考えに反対の意見を持っている人はただ呆れたり諦めたりして、無投票の人が多いと感じます。けれどそれは自分の意思を伝えられていなく、反対している事になっていないと思います。行

動しなければ何も始まらないし、何も変わりません。私にはそのような権限はありませんが、意見を伝えることのできる大人には、見せかけに騙されずに、本質を見極められるような人を国のトップとして選んで欲しいです。そして私はこの感話を通して、世の中をしっかりと見て大人のしている事を鵜呑みにせず、自分の頭で考えることの大切さを改めて実感しました。

私が大人になった頃、日本、そして世界がどのような世の中になっているかわかりません。しかし、どんな世の中になっていたとしても、権力を持っても驕り高ぶることなく、きちんと自分の否を認める人、自分の意見を主張できる人になり、正しいと思った事を行動していきたいです。そして、自分の意見を自由に言える民主主義の世の中が長く続いていけば良いと思いました。

キリスト教の学校で学ぶ私達が、これから人のため世の中のために何ができるのか、もっと政治や社会に関心に向け、考えていくべきだと強く感じました。